(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3655104号
(P3655104)
(45)発行日　平成17年6月2日(2005.6.2)　(24)登録日　平成17年3月11日(2005.3.11)

(51)Int.Cl.[7]　F I
B65D 33/25　B65D 33/25　A
B65D 81/34　B65D 81/34　P
B65D 81/34　U

請求項の数 2　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平10-254647
(22)出願日　平成10年8月26日(1998.8.26)
(65)公開番号　特開2000-72157(P2000-72157A)
(43)公開日　平成12年3月7日(2000.3.7)
審査請求日　平成13年11月12日(2001.11.12)

(73)特許権者　000147316
株式会社生産日本社
東京都千代田区麹町５丁目３番地
(74)代理人　100064469
弁理士　菊池　新一
(74)代理人　100099612
弁理士　菊池　徹
(72)発明者　谷野　充
静岡県浜松市有玉北町２１３６－１

審査官　川本　真裕

(56)参考文献　特開平０７－２７７３４８（ＪＰ，Ａ）
実開平０２－１４４５４９（ＪＰ，Ｕ）
特開平１０－１１４３７６（ＪＰ，Ａ）
最終頁に続く

(54)【発明の名称】合成樹脂製チャック付袋体

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
開口部に２対の合成樹脂製雌雄爪型チャックを平行して設けた袋体において、前記２対のチャックは、一つの広幅のベース片を介して袋体と一体化されており、前記２対のチャック間の広幅のベース片に通気口を設け、この通気口を挟んで開口部側の広幅のベース片部分は袋体とその長手方向に渡って連続状に一体化されており、袋体収納部側の広幅のベース片部分は非接着若しくは袋体とこのベース片部分との間に前記通気口への通気を可能とする非接着部を有して一体化されていることを特徴とする合成樹脂製チャック付袋体。
【請求項２】
前記非接着部を袋体の内圧によって剥離するイージピール性の弱接着部としたことを特徴とする請求項１に記載の合成樹脂製チャック付袋体。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、袋体内外の通気性を必要とする物品の包装、特に電子レンジ、オーブンあるいはボイルにより加熱調理を行う食品の包装に適した合成樹脂製チャック付袋体に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
近年、食品加工技術や包装技術の進歩により、あるいはコールドチェーンシステムの確

立や家庭における冷凍冷蔵庫の普及により、電子レンジ等により加熱するだけで、すぐに食用に供することができるような食品が種々開発され提供されている。また、家庭においても時間や労力の節約のため、作り置きした料理を袋にいれて凍結保存し、必要なときに加熱して食用に供するようなケースが一般化しつつある。

【０００３】

電子レンジを例にとると、良く知られている例として、ボイル加熱では上手に出来上がるゆで玉子が、電子レンジにかけると玉子が破裂する結果を招くことになる。これは加熱のメカニズムの違いによるもので、電子レンジは高周波（極超短波）の照射によって、食品に含まれている水分子等を振動させ、この水分子等の振動によって生じる摩擦熱により食品を加熱するものであり、この高周波加熱に伴って食品から水蒸気が発生する。従って、玉子のような殻で密封状態におかれたものは、水蒸気による膨脹によって最終的に破裂する。

【０００４】

これに関しては包装袋の場合も同様であり、食品の品質保持のために考慮された密封情況により、そのまま加熱したのでは包装袋の破裂を招くことになる。従来例として、開封後の再加熱処理を容易かつ確実に行うことができ、必要量以外を保存しておくのに便利な袋として、特開平７－２７７３４８号のようなチャック付袋が提供されている。

【０００５】

【発明が解決しようとする課題】

上記特開平７－２７７３４８号は袋体の開口部に上下２つのチャックを平行に設け、この２つのチャック間の袋体フィルムに外気と連通する開口穴を開けて、加熱時には上側のチャックを閉じておき、下側のチャックを開いて袋体内の膨脹ガスを前記開口穴より外気にリークさせ、保存には加熱終了前後に下側のチャックを速やかに閉じて密封し加熱殺菌状態を維持するようにしたものである。しかしながら、この特開平７－２７７３４８号では、加熱するときには、必ず上側のチャックを閉じ、下側のチャックを開き、加熱終了前後には下側のチャックを閉じるという面倒な操作が必要である。

【０００６】

本発明の目的は、電子レンジ等によりそのまま加熱処理するとき簡単な操作手順で加熱処理及びその後の保存を可能にした合成樹脂製チャック付袋体を提供することである。

【０００７】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため本発明は、請求項１に記載の通り、開口部に２対の合成樹脂製雌雄爪型チャックを平行して設けた袋体において、前記２対のチャックは、一つの広幅のベース片を介して袋体と一体化されており、前記２対のチャック間の広幅のベース片に通気口を設け、この通気口を挟んで開口部側の広幅のベース片部分は袋体とその長手方向に渡って連続状に一体化されており、袋体収納部側の広幅のベース片部分は非接着若しくは袋体とこのベース片部分との間に前記通気口への通気を可能とする非接着部を有して一体化されていることを特徴とするものである。

【０００８】

請求項２に記載の通り、前記非接着部を袋体の内圧によって剥離するイージピール性の弱接着部としたことを特徴とするものである。

【０００９】

【発明の実施の形態】

以下本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図１及び図２において、１は合成樹脂フィルムよりなる袋体であり、その開口部２には２対の合成樹脂製雌雄爪型の再開閉可能なチャック３Ａ，３Ｂが平行して設けられている。

【００１０】

前記一方のチャック３Ａは袋体１の開口部２側であり、他方のチャック３Ｂは袋体１の収納部側である。これらチャック３Ａ，３Ｂは図２で示すように、咬合する雌爪３ａと雄爪３ｂとからなっている。この２対のチャック３Ａ，３Ｂは図３にも示すように１つの広

幅ベース４Ｃを介して開口部２の袋体フィルム１ａの内側面に取り付けられている。尚、雌爪３ａと雄爪３ｂの形状や配列は図示に限定されるものではない。

【００１１】

前記広幅ベース４Ｃの取り付けは図１乃至図３で示すように、袋体１の開口部２側である一方のチャック３Ａ側の広幅ベース４Ｃは、チャック３Ａを挟んでその長手方向に渡る連続接着部５０にて一体化されており、また、袋体１の収納部側である他方のチャック３Ｂの側の広幅ベース４Ｃは、非接着の開放状態（図示省略）であるか若しくはチャック３Ｂを挟んで接着部５及び非接着部６によって一体化している。そして、この広幅のベース片４Ｃのチャック３Ａ，３Ｂ間にはスリット状の通気口８を形成している。

【００１２】

従って、他方のチャック３Ｂ側の広幅のベース片４Ｃ部分が、非接着の開放状態であることにより、若しくは前記非接着部６を有して一体化されていることにより、前記通気口８への通気を可能とするものである。尚、この図１乃至図３の非接着部６を袋体の内圧によって剥離するイージピール性の弱接着部としても良いし、この弱接着部の部位に常時開通している小通気路を形成して所要の通気が保たれるようにしても良い。また、通気口８をスリット状に変えて丸穴や角穴としても良い。

【００１３】

本発明は上記の通りの構造であるから、図４で示すように、通常は２対のチャック３Ａ，３Ｂは閉じられて密封しているが、電子レンジ等によって加熱するときは、図６で示すように、袋体１の収納部側のチャック３Ｂは閉じたままとし、袋体１の開口部２側のチャック３Ａのみを開ける。これにより、加熱によって袋体１内の水蒸気等の圧力が高まると図３で示すように、非接着部６から通気口８にリークされ、前記通気口８にリークされた水蒸気等の圧力は開かれている袋体１の開口部２側のチャック３Ａを通過して袋体１の開口部２より外気に放出され袋体１の破裂を防止する。

【００１４】

上記非接着部６をイージピール性の弱接着部とした場合では、加熱によって袋体１内の水蒸気等の圧力が高まると圧力を受圧して弱接着部が剥離し、通気を可能とする。

【００１５】

尚、図示省略しているが、図３において他方のチャック３Ｂ側の広幅のベース片４Ｃ部分を非接着の開放状態とする場合においても、この広幅のベース片４Ｃ部分を部分的あるいは長手方向に渡る連続状のイージピール性の弱接着部としても良い。この場合、袋体の内圧が高まることによって前記イージピール性の弱接着部が剥離して、他方のチャック３Ｂ側の広幅のベース片４Ｃ部分は非接着の開放状態となり、通気口８からの通気を円滑にする。

【００１６】

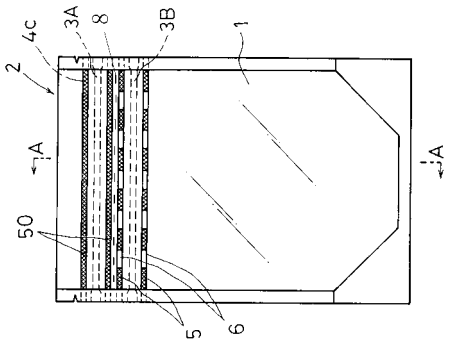
上記弱接着部の部位に常時開通している小通気路を形成した構造では、通常は２対のチャック３Ａ，３Ｂは閉じられて密封しているが、通気を必要とする包装物では、袋体１の開口部２側のチャック３Ａのみを開けておくことにより袋体１内は小通気路によりスリット状の通気口８を介して外気と連通して呼吸を可能にしている。また、電子レンジ等によって加熱するときは、袋体１の収納部側のチャック３Ｂは閉じたままとし、袋体１の開口部２側のチャック３Ａのみを開ける。これにより、加熱によって袋体１内の水蒸気等の圧力が弱接着部を剥離する圧力に上昇するまでは弱接着状態を維持して小通気路より小さな流量で水蒸気等の圧力をリークし、袋体１の開口部２より放出しているが、弱接着部を剥離する圧力に上昇すると、弱接着部が剥離し、大きな流量で袋体１内の圧力をリークし、袋体１の開口部２より放出して破裂を防止する。

【００１７】

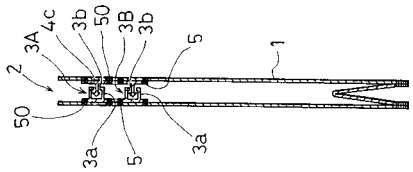
この弱接着部の部位に常時開通している小通気路を形成した構造は、袋体１内の水蒸気等の圧力が弱接着部を剥離する圧力に上昇するまでは弱接着部は接着状態を維持しているため、包装物の蒸らし効果を有し、かつ包装物の水分を徒に放出して食品の味の変化や乾きで硬くなったりするのを防止することができる。

【００１８】
上記何れの構造においても、加熱時には袋体１の開口部２側の一方のチャック３Ａのみを開くだけの簡単な操作で加熱処理をすることができ、また、内容物の一部を取り出した後の残っている内容物の保存に当たっては上側のチャック３Ａを閉めるだけで密封しておくことができるものである。
【００１９】
上記の実施形態では上部に開口部２を有する袋体１で説明しているが、袋体１の胴部にチャック付の開口部を有する横置きとなる袋体においても本発明は適用することができるものであり、上部に開口部２を有する袋体１に限定されるものではない。
【００２０】
また、接着部５及び非接着部６あるいは弱接着部は長さと幅を、小通気路は大きさを、包装物に応じて最適な条件で設定することにより、加熱調理のための適度の蒸気放出と蒸らしが得られ、袋体１の破裂が防止される。尚、接着部５及び非接着部６あるいは弱接着部の形態は、この明細書及び図面で示した内容に限定されるものではなく、適宜設計変更を試みることは本発明のカテゴリーに属する。また、長さと幅、間隔、位置関係の変更だけでなく、接着部５をスポット状の接着部とするような場合も同様である。さらに弱接着部に関しては、内圧によって接着部が損傷を受ける前に剥離開口する接着部と定義づけられるものである。
【００２１】
【発明の効果】
以上のように本発明によると、加熱時において平行する２対のチャックのうち袋体開口部側の一方のチャックのみを開き、加熱終了後の保存の場合は前記開いた一方のチャックを閉じるだけの操作であるため、簡単な操作手順で加熱処理及びその後の保存を可能にする。また、袋体開口部側のチャックを開閉操作するものであるから、従来の袋体収納側のチャックを開閉するものに比べて容易かつ確実に開閉することができる利点を有している。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明の袋体の正面図
【図２】図１Ａ－Ａ線断面図
【図３】本発明の要部斜視図
【図４】図３のＢ－Ｂ線断面図
【図５】図３のＣ－Ｃ線断面図
【図６】図３の構造の袋体の加熱時の開口部断面図
【符号の説明】
１　袋体
２　開口部
３　チャック
４ｃ　広幅ベース片（若しくはテープ状片）
５　接着部
６　非接着部
８　通気口
５０　連続接着部

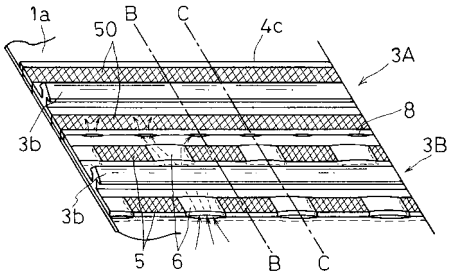
【図１】



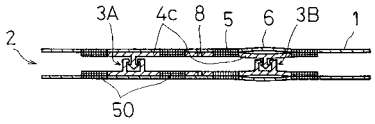
【図２】



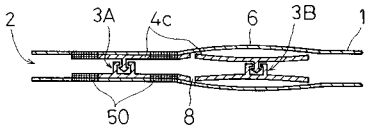
【図３】



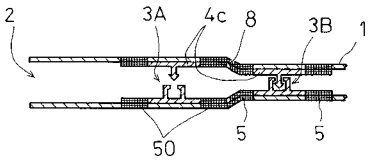
【図４】



【図５】



【図６】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.[7], ＤＢ名)
B65D 33/25
B65D 81/34